平成２９年度、平成３０年度 千里たけみ留守家庭児童育成室の検証結果について

令和元年７月

吹田市教育委員会
地域教育部 放課後子ども育成課

吹田市立千里たけみ留守家庭児童育成室「風の子ことり学級」（以下、「千里たけみ育成室」とする。）については、平成２９年４月より、これまでの直営での運営から、社会福祉法人千里聖愛保育センターに業務委託している。委託期間は、平成２９年４月から令和２年３月までの３年間である。

児童福祉法において、事業に必要な水準を確保するため、市町村による事業者への調査や命令等が定められており、運営業務を民間に委託している留守家庭児童育成室（以下、「育成室」とする。）の運営状況に関して、過去からの推移を含め、放課後子ども育成課による検証を行い報告するものである。

～検証方法～

１　放課後子ども育成課職員［担当事務職員、スーパーバイザー（ＳＶ ※元公立保育園保育士)］による現地視察（週１回程度）

２　保護者へのアンケート：委託初年度 年間３回、２年目以降 年間１～２回

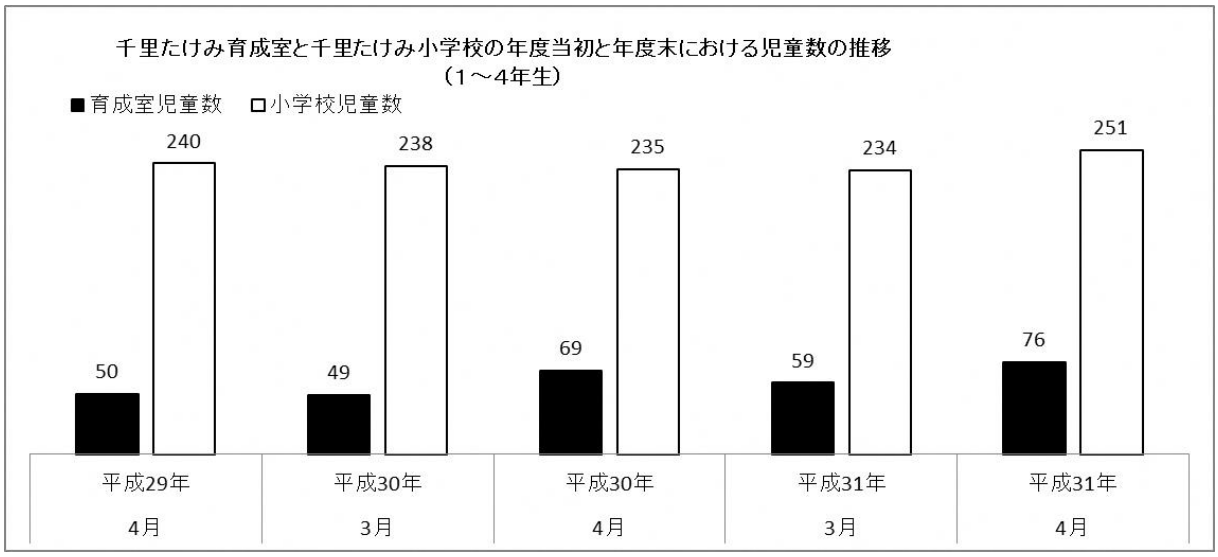
３　事業者への聞き取り

４　チェックシートを用いた業務の履行状況の確認と評価

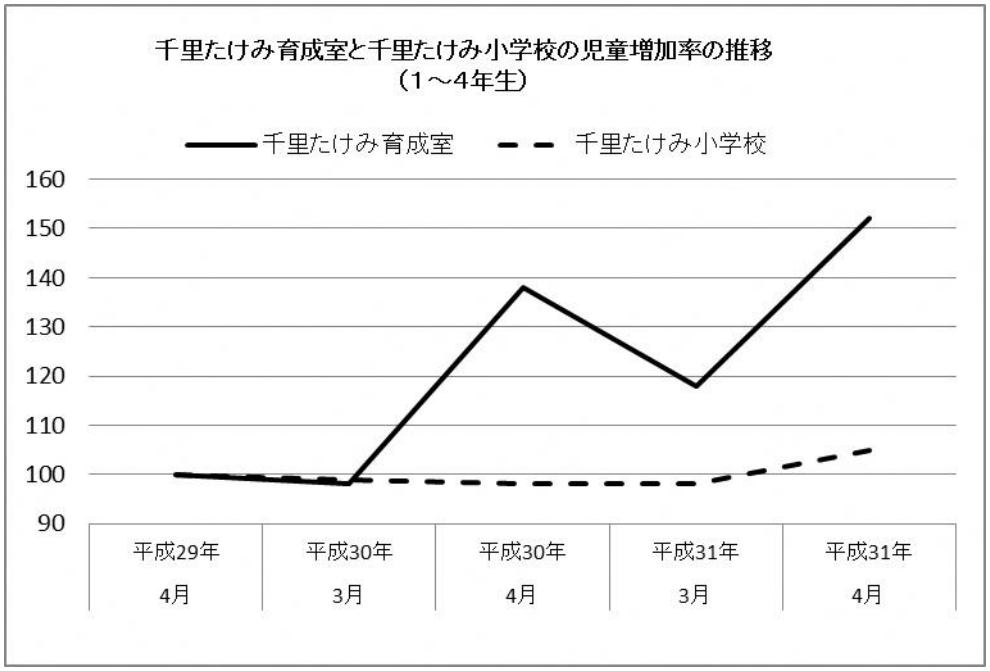
１　入室児童数について

千里たけみ育成室については、平成２９年４月時点で５０人在室（学年内訳、１年：１６人、２年：１６人、３年：１４人、４年：４人）しており、うち配慮を要する児童（障がいを有する児童）が５名在籍している。２教室で運営しており、１室あたりの児童数は、２５人となっている。平成３０年４月時点では７０人在室（学年内訳、１年：２５人、２年：１７人、３年：１４人、４年：１３人、５年：１年）しており、うち配慮を要する児童（障がいを有する児童）が６名在籍している。１室あたりの児童数は、３５人となっている。児童数の規模としては、３６育成室中、平成２９年度は６番目、平成３０年度は１１番目であり、育成室の中では少ない方である。

【表 1】

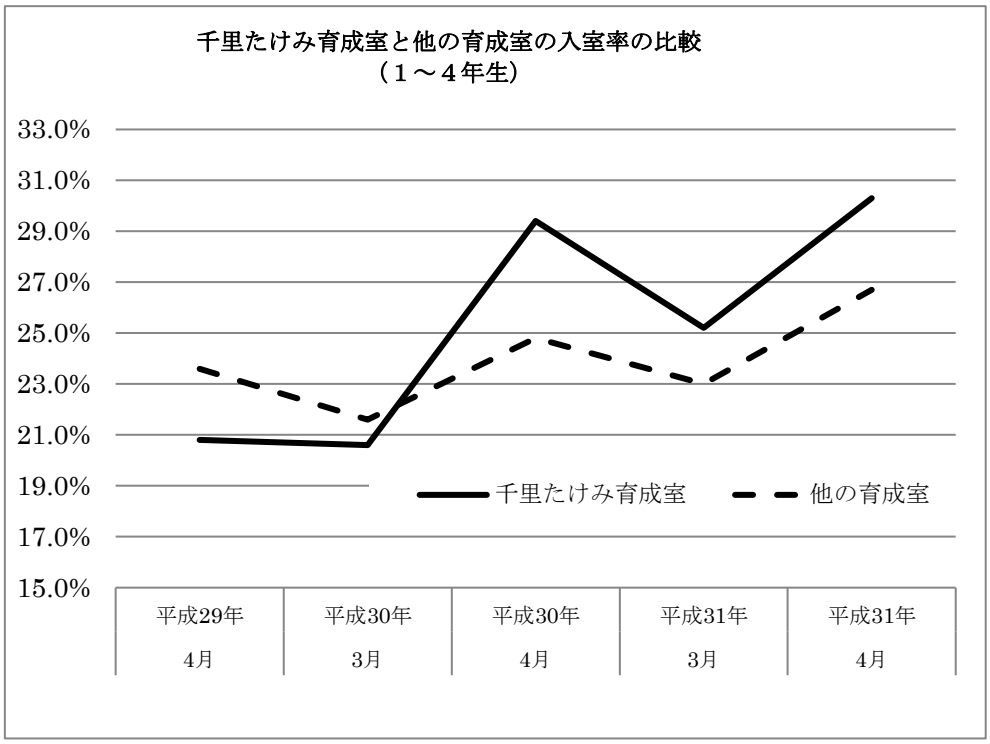


【表 2】



千里たけみ育成室の平成２９年度から平成３０年度までの入室率（小学校児童のうち育成室を利用している児童の割合）は【表 3】のとおりとなっている。他の育成室との入室率の比較においては、千里たけみ育成室の開室当初は他の育成室に比べ低い値であったが、平成３０年度には、他の育成室を上回る値となっており、この値からも保護者が民間事業者である現在の委託事業者に対し、運営内容に不安をもっているため入室を控えていることは読み取ることはできない。

【表 3】



２　保育内容について

（１）日常における保育の取り組みについて

千里たけみ育成室の日常の保育の取り組みとしては、仕様書に沿って行われており、児童の健全育成への貢献は十分であると認められる。理由としては以下を挙げることができる。これらは特に目新しいものではなく、他の育成室でも行っていることではあるが、このような基本的なことを丁寧にしていることが、児童の健全育成にとってとても重要である。

ア　児童の登室、帰室状況等の把握をしっかりしている

連絡帳や電話での事前連絡及び出欠簿での管理。補助的にホワイトボードでの管理も行っている。延長開始時には延長児童出欠簿（延長児童用に別途作成）で改めて出欠確認を行っている。

イ　連絡帳の確認がきちんとなされている

指導員、保護者共に連絡事項がある時に記入。指導員側からは特に子どもたちの心身の変化、怪我、トラブル等の際には気をつけて記入するようにしている。また配布物等は連絡帳の中にポケットを作りそれを活用している。

ウ　班活動や遊びを通じた児童の集団作りを行っている

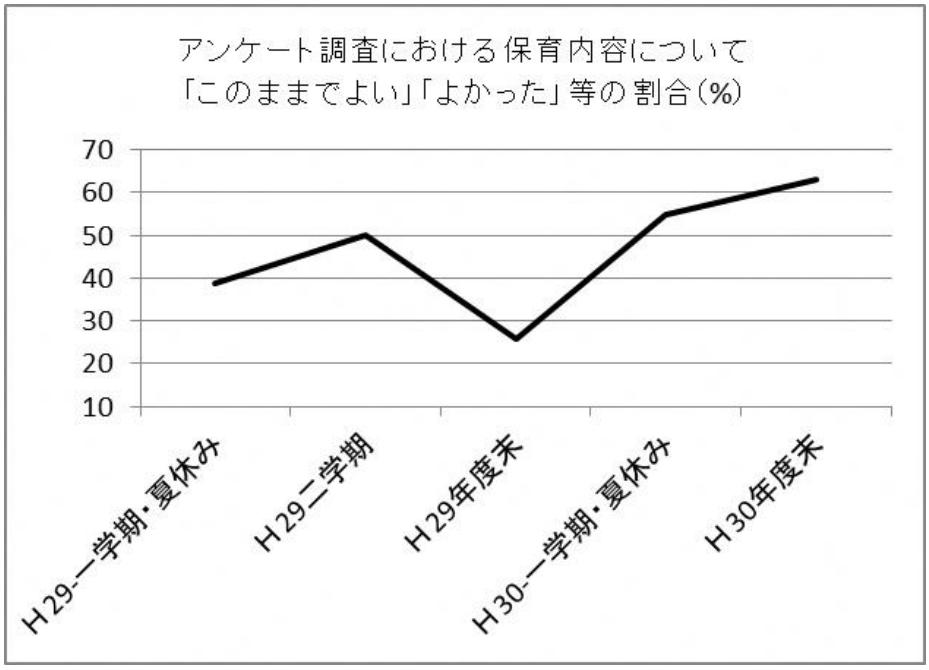
クラスごとに異年齢で班を作り、定期的に変更することで、児童同士が協調しながら一緒に生活することを学べるようにしている。また、集団遊びや取り組みを取り入れるなどして、学級での一体感や全員で何かを作り上げる楽しさを知る機会としている。その他、支援の必要な児童が生き生きとその児童らしく生活ができるように、ま

た他児童と良い関係性を築けるように、必要に応じてその都度、それぞれの児童と個別に話をする機会を持つようにしている。

（２）保育内容に対する保護者の意見について

保育内容に対する保護者の意見については、【表 4】のとおり、これまで行った５回のアンケートの調査結果から、「このままでよい」や「よかった」等の回答をした保護者の割合が平成２９年度末から平成３０年度末にかけて 40%近く上昇しており、高い評価に転じていることが読み取れる。平成２９年度末に最も多かった回答である「イベント（クッキング、お誕生日会など）をもっと増やすべきである（40.7%）」が、平成３０年度末では 14.8%に減少していることから、平成３０年度はしっかりと保護者意見を保育に反映させることができたものと推察できる。

【表 4】



（３）イベント（クッキング保育やお誕生日会等）について

クッキング保育は小学校長期休業中を中心に週１回程度、お誕生日会は毎月など、他の育成室と同程度にイベントを実施している。平成３０年度のデイキャンプは猛暑のため安全に配慮し、お昼寝を挟むプログラムに変更して学校で実施した。

（４）おやつの提供について

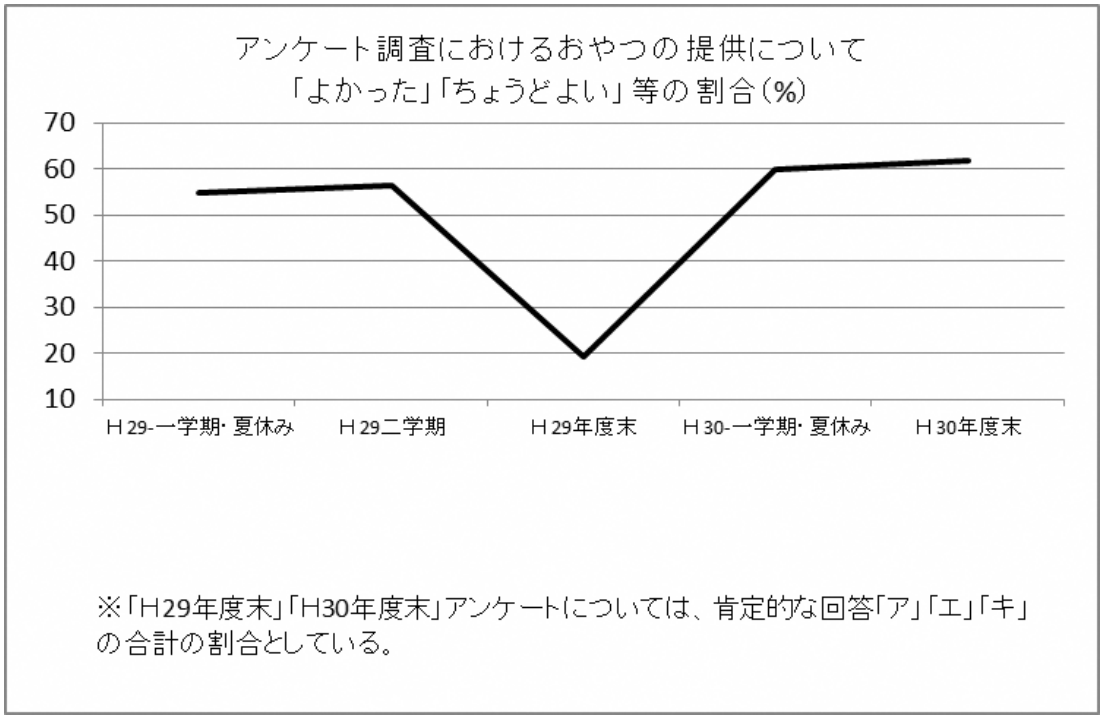
栄養バランスと共に、児童たちにとって楽しみとなるように考え、用意している。また、スナック菓子ばかりにならないように、季節の果物、焼きおにぎりやおかず系のものなどを取り入れ、必要に応じてホットプレートで調理をするようにしている。アレルギー対応についても、できる限り全員で同じものが食べられるものを選んでいる。別途購入をする場合も保護者に確認を取った上で、アレルギー、消費期限を含め

て指導員全員が把握できるよう冷蔵庫に貼り出している。また、緊急時のマニュアルなどを作成し、アレルギー対応に関しては繰り返しエピペン使用や連携の訓練、研修等を実施している。

（５）おやつの提供に関する保護者の意見について

これまでのアンケートの回答では、【表 5】のとおり、おやつに関して「よかった」や「ちょうどよい」等肯定的な意見が、運営当初は 50%台であったが、平成２９年度末に約 20%と大きく下がっている。その後、平成３０年度の２回のアンケートでは 60%台に伸ばしているため、現在はおおむね良好であるとの評価を得ている。平成２９年度末の回に最も多かった回答は、「袋菓子ばかりのおやつは止めてほしい」が 36.1%あったが、運用の改善に取り組んだことにより、平成３０年度末の回では、7.1%と減少しているため、おやつの提供においても、保護者の意見を反映させることができたものと推察できる。なお、種類を増やしてほしかった、量が多かった、という回答も少数ながら存在しており、メニューや提供方法の工夫など、継続して検討してもらいたい。

【表 5】



３　指導員について

（１）指導員の配置について

千里たけみ育成室の指導員の配置については、２教室での運営であるため、教室に配置する指導員が４名となっている。また、配慮を要する児童に対する加配が２名必要であるため、１日当たり６名の指導員の配置が必要であるが、きめ細やかな保育のため、独自に１名配置人数を多くして、１日当たり７名の指導員の配置を行っていた。勤務形

態や保有資格等の内訳は、正規雇用の指導員４名で、それ以外は非正規（アルバイト）指導員であり、正規雇用の指導員が毎日育成室に勤務するのに対し、非正規雇用の指導員については、１週当たり３日～５日のシフトを組み、勤務に従事していた。保有資格としては、正規雇用の指導員は、保育士、教員の資格を保有している。

指導員間のチームワークは非常によく、様々な課題に直面した場合でも、主任指導員を中心として解決を図る姿勢が見られ、放課後子ども育成課の職員やＳＶとも積極的に連携を図り、育成室の保育内容の充実・向上を図る努力を感じることができた。

（２）指導員の児童との関わりについて

児童と一緒に遊んだり見守っていたり、その時々にあわせた対応をしている。児童が主体となって遊べる環境づくりを心がけている。一緒に昼食を食べたり、遊んだりすることを通して、互いを知り、信頼関係を育むようにしている。また、問題行動などがあった際にも、児童の話を丁寧に聴き、指導することを心がけている。

児童の思いや意見、なぜそのような行動に至ったのかについてなどを丁寧に聴き取った上で話をするようにしている。また、子ども自身が本当に理解できるまで繰り返し伝え続けている。そのため、子ども達は指導員を信頼しており、指導員は子ども達の心をしっかりとつかんでいるため、千里たけみ育成室は楽しい雰囲気を持った育成室となっている。

（３）指導員に関する保護者からの意見について

平成２９年度と平成３０年度を対象に実施したアンケートでは、平成２９年度と平成３０年度の年間を通じてのアンケートにおいて指導員についての設問がある。どちらの回についてもこの設問は複数回答可としており、指導員に対して保護者がどのような考えを持っているかを聞く設問となっている。

実施回によって回答項目数や内容に多少違いがあるが、回答が多かった順に上位５つを挙げると以下のとおりなっている。

○「平成２９年度末」アンケート

1 位…「日常の子ども達の様子を、連絡帳や電話でもっと知らせてほしかった」18.3%

2 位…「指導員は児童の輪に入り、積極的に児童と関わりを持っていた」11.7%

3 位…「保護者との距離感があり、気軽に声を掛けづらかった」10.0%

4 位…「児童と積極的に関わっていないように感じた」8.3%

4 位…「いつも明るく、元気に児童や保護者と接することができていた」8.3%

○「平成３０年度末」アンケート

1 位…「指導員は児童の輪に入り、積極的に児童と関わりを持っていた」18.6%

2 位…「連絡帳や電話などを使い、育成室での出来事を保護者に適切に伝えることができていた」12.4%

2 位…「児童のことを丁寧に見ている印象があり、安心感を持つことができた」12.4%

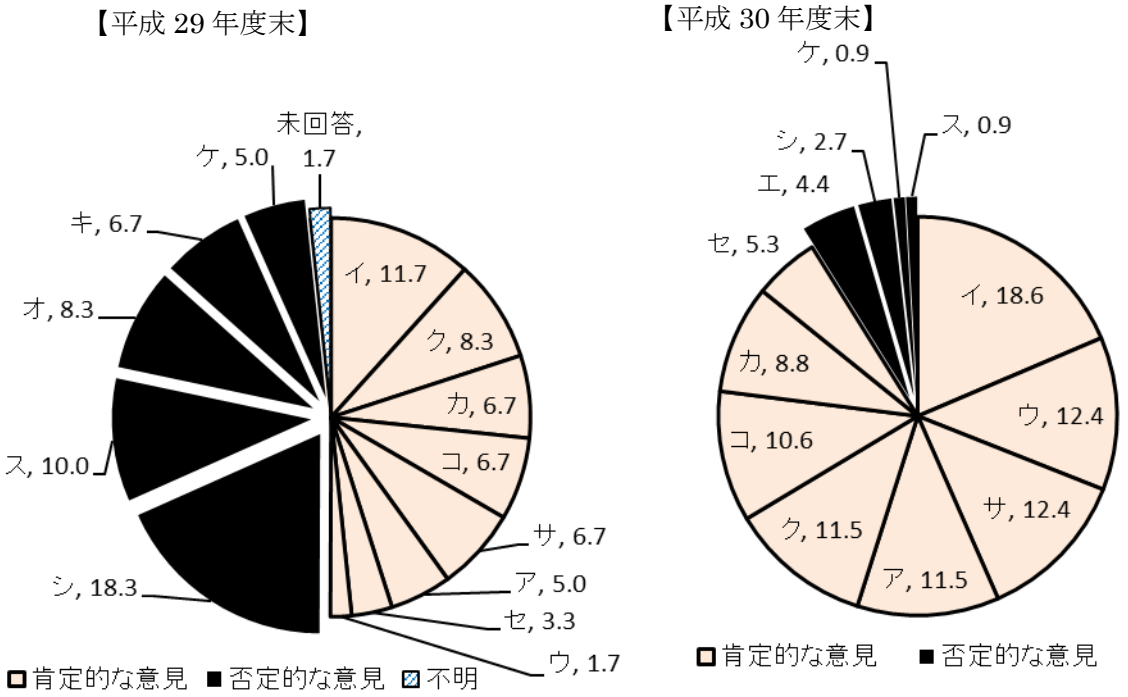
４位…「児童の相談に乗り、児童の気持ちに寄り添うことができていた」11.5%
４位…「いつも明るく、元気に児童や保護者と接することができていた」11.5%

指導員に対して肯定的な意見をすべて合わせると、平成２９年度末のアンケートでは全体の 50.0%と決して高くなかったが、平成３０年度末のアンケートでは全体の91.1%と非常に高い評価に転じている。平成２９年度末に最も回答が多かった「日常の子ども達の様子を、連絡帳や電話でもっと知らせてほしかった（18.3%）」という意見が、平成３０年度末には 2.7%と大きく減少し、また「連絡帳や電話などを使い、育成室での出来事を保護者に適切に伝えることができていた」という意見が平成２９年度末には 1.7%とほとんど回答されていなかったが、平成３０年度末では 12.4%と大きく増加していることからも、指導員の児童との関わり方や保護者対応に大きな改善が見られたことが読み取れる。

しかしながら、ごく少数意見ではあるが、一生懸命業務に取り組んでいない、日頃の様子を知らせていないと感じている意見もあり、今後も丁寧に保護者意見に耳を傾けて、更なる取組みの向上に期待したい。

【表 6】

保護者アンケートにおける指導員の評価に関する回答



※各項目の内容については、別添アンケート結果を参照

4　委託事業者独自の取り組みについて

（1）　ヨガ体験や独自の玩具を取り入れている。

玩具は発達年齢に見合ったものを玩具研究家のアドバイスを受けて取り入れている。主なものにクーゲルバーンや LaQ、ドミノレース、塗り絵ブックマンダラ、キンダースタジアムなど。LaQ やカプラの先生を呼び、遊び方を教えてもらうことで遊びが広がっている。その他、手織り機でマフラーやコースター作りなど様々な遊びを提案している。イベントとしては、ヨガ体験、落語会、日本発明振興協会による工作会や、近隣保育園である千里聖愛保育センターとの交流会を行っている。

（2）親子参加型行事について

現在の委託事業者は、忙しい保護者の負担にならないように、イベントについては基本的にすべて事業者の指導員のみで行うようにしている。それにより、保護者同士の交流の機会がないため、親子参加型行事を開催している。親子参加型行事は第４土曜日の開室時に体育館にて親子または保護者同士の交流会を開催。取組内容として日頃児童が遊んでいる「みんな遊び」（ドッジボール、長縄等）を行い、終了後は、教室にて懇親会を行い、指導員と保護者の交流の場となっている。普段は忙しい保護者にとって、他の家庭と交流を図ることができ、育成室の雰囲気を感じることができる時間となり、とても有意義なものとなっている。また、平成２９年度はスーパーカーニバル（保護者、育成室以外の児童、先生、放課後子供教室のスタッフなどを招き、児童が企画するお祭り）で当日の司会進行を児童が担当し、コマやけん玉の出し物などを披露。出し物とコーナー遊びは児童が企画。平成３０年度は地域事情でスーパーカーニバルを中止したため、リーダー会議（3、4 年生会議）で保護者のみを招いたクリスマス会を実施することを決定し、児童らが飾り付けを行い、出し物、ゲームなどで交流が図られた。

（3）事業者独自の取り組みに関する保護者の声について

LaQ 博士が来てくれたり、編み機でポシェットを作らせてもらったり、家ではできない遊びが出来て良かったという声が多数寄せられている。

親子参加型プログラムについては、保護者の出席率もかなり高く、アンケートでもほとんどが肯定的な回答となっている。もっと多くの開催を求める声もあり、どこまで保護者の要望に応えていくかを検討する必要も生じている。

5　総合的な評価について

（1）放課後子ども育成課による評価について

放課後子ども育成課職員（担当事務職員、スーパーバイザー）による現地視察及び事業者への聞き取りによる検証による総合的な評価として、千里たけみ育成室の運営については、以下の理由により、高く評価をすることができる。

1　育成室では、入室児童が笑顔で楽しく過ごしている。

2　指導員が常に子ども達とコミュニケーションをとっている。

3　連絡事項については、主任指導員、委託事業者、放課後子ども育成課の間で共有が図られており、組織だった運営が行われている。
4　育成室の運営では、直営育成室の取り組みの内容をベースに組み立てられており、新たなことは子ども達にとって望ましいものを取り入れていく姿勢が見られる。
5　保護者への情報提供の場として、懇談会を育成室全体・個人の両方開催しており、オープンな運営を心掛けている。
6　事業者独自の取り組みについても、保護者・児童のニーズを的確に把握しており、満足度も高いものとなっている。

また、項目を立てて記述することはなかったが、以下の事項でも高い評価をすることができる。

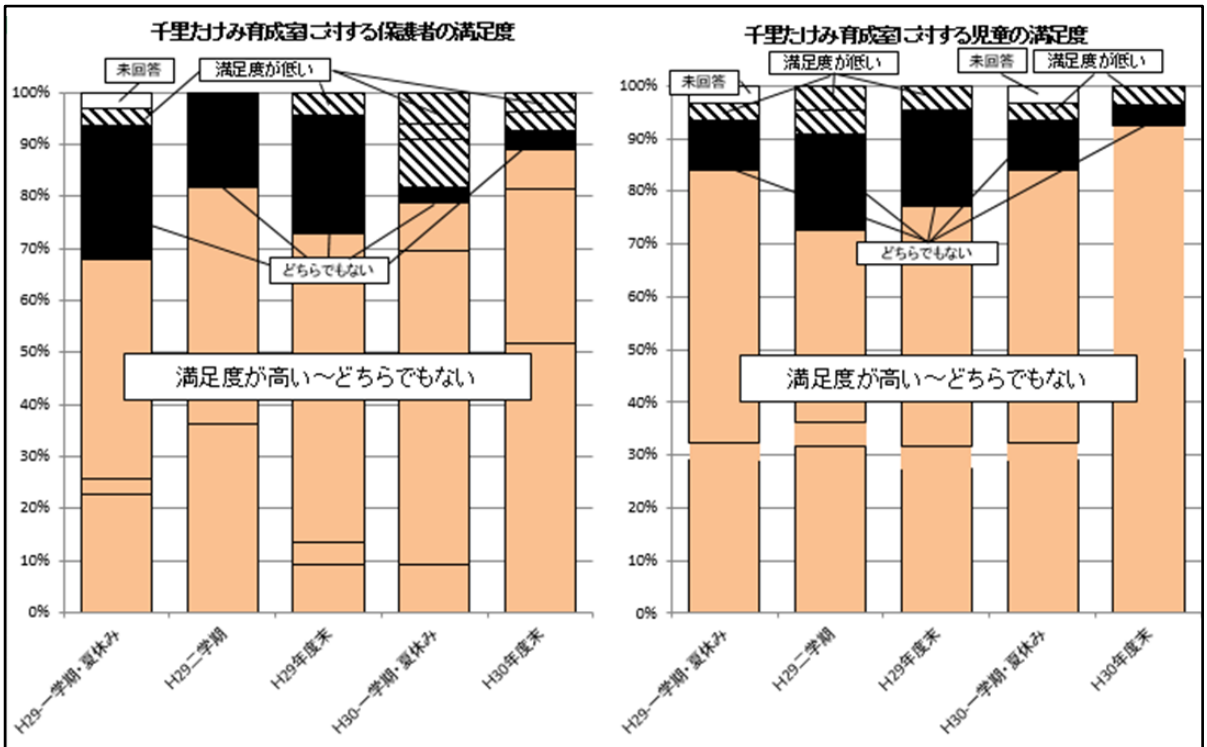
7　小学校とも連携が図られており、小学校の不審者情報や行事等の情報が共有されている。また日頃の児童の様子で変化や気になる点があれば必要に応じて、担任の先生や学校長との情報交換を行っている。
8　太陽の広場（放課後子供教室）とも連携が図られており、連携会議に出席して情報交換を行い、運動場で一緒に遊びの活動を行っている。
9　怪我が起きた際にも迅速な対応がなされており、病院への搬送、保護者への連絡、小学校への連絡、委託事業者への連絡、放課後子ども育成課への連絡ができている。
10　台風やインフルエンザによる臨時休校や学級閉鎖についても、常に小学校や放課後子ども育成課と連絡をとり、児童に混乱が生じないように努めている。

（2）保護者へのアンケートにおける総合的な評価について

これまでの保護者へのアンケートには、「子ども達にとって千里たけみ育成室はどの程度楽しい場所か？」を聞く設問と、「保護者にとって千里たけみ育成室はどの程度満足できるものとなっているか？」を聞く設問を設けている。その結果から見える、事業者の運営状況の総合的な評価としては、「保護者や児童からも、概ね高い評価を受けている」と言える【表 7】。

しかしながら、アンケートではごく少数であるが、「日常の子ども達の様子をもっと知らせてほしかった」「指導員とのコミュニケーションがとりづらくなった」「一生懸命業務に取り組んでいないように感じた」等、指導員として求められるべき部分ができていないとする意見もあり、全体的な評価の良さに楽観視せず、現在の高い評価が落ちてこないように、これからも注意していく必要がある。

【表 7】



【表の見方】

	評価が高い						評価が低い	
保護者	とても満足している			どちらでもない			とても不満がある	未回答
児　童	とても楽しい			どちらでもない			とてもつまらない	未回答

6　終わりに

これまでの放課後子ども育成課の職員による視察や保護者へのアンケート等による様々な検証、その他小学校をはじめとする関係機関との日々の連携による状況把握の結果、現在の委託事業者における運営は、委託開始１年目の平成２９年度においては、指導員の努力の成果が表れなかった時期があったと認められるものの、平成３０年度にはしっかりとした良好な保育と育成室運営が行われていることが確認できた。アンケートの自由記述欄においても、「迎えに行った際にもっと居たかったと話す」「いつもにこやかな表情で帰ってくる」等、子ども達が育成室を楽しんでいる様子が書かれた記述を多く見ることができ、また、「安心して預けられる」「（指導員が）丁寧に対応している」等、保護者が満足している内容の感想が書かれた記述も多く見ることができる。子ども達と保護者にとって、現在の育成室は「安心できる、楽しい場所である」との認識が拡がっている。

現在の委託事業者には、今後とも現在の方針を継続し、保護者、学校、放課後子ども育成課としっかり連携を密にした運営を行い、同時に、普段から子ども達と保護者の声に耳を傾けて、改善が必要なところはないかを丁寧に検証しながら、更なる向上を目指してもらいたい。